

# 三重県松阪市駅部田における 祝言のあいさつ

岸江信介

〇はじめに

## 1. 対象地の地理的環境：

三重県松阪市駅部田（マエノヘタ）は、三重県の津市と伊勢市とのほぼ中間、伊勢平野の南部に位置した集落である。JR紀勢本線、近畿日本鉄道伊勢線の松阪駅から南西約2kmのところにある。三重県下の主要道路である国道23号線が近くを通っているほか、奈良県大和高田市と松阪市とを結ぶ国道166号線と、和歌山市と松阪市とを結ぶ国道42号線（かつての熊野街道）とのちょうど分岐点にある。

## 2. 対象地の社会的経済的環境：

農業を中心とした集落であるが、昨今、伊勢市、津市、四日市をはじめ、名古屋市方面への通勤も目立ってきている。

最近、駅部田付近の42号線沿いにスーパーマーケットをはじめとした店舗が立ち並び、ここ数年の集落周辺の景観は様変わりしつつある。

## 3. 生業：

農業が主であるが、専業農家はほとんどないといってよい。特筆すべき地場産業もない。

## 4. 交通：

松阪駅へは約10分おきに三重交通バスが走っており、所要時間は約15分で、極めて至便である。

## 5. 人口：

世帯数は2,012戸、人口は6,016人（ともに平成2.11.1現在）であるが、農地の宅地化があちこちで進み、人口増加の一途を辿る。

6. 調査年月日： 1990年11月10日午後7時～午後8時30分

1990年11月11日午後8時～午後8時30分

7. 方言教示者： 楠本幸一 大正15年5月8日生

そのほか、60才代の女性数名に補充調査を行った。

8. 調査者： 岸江信介

調査場所 : 教示者自宅

9. 調査方法 : 主として、質問法によった。複数の話者宅を訪問し、各場面での試演をお願いした。

### I. 結納授受のあいさつ

1. 仲人が新婦の家に結納を持参した時、座敷で、その家の主人（新婦の父親）に向かって、どのようなあいさつをしますか。

エー 「コノ」タビワー ゴエンダン「ガ」 オマトマリニ ナリ「マ」シテ マコトニ オメテ「ト」ー 「ゴザイマス。「ホ」ンジツワ オヒガラモ 「ヨー ゴザイマシ」テ 「ソノ ゴコンヤクノ シルシ」トシテ 「ゴユイノー オトドケニ 「アガリマシ」タ。「イ」クヒサシュー「ー 「ゴジュノー クダサイマスヨ」ーニ。

ええ、この度は御縁談がおまとまりになりまして、誠にめでとうございます。本日はお日柄もようございまして、その御婚約の印として御結納お届けに上がりました。幾久しく御受納下さいますように。（老男→老男試演）〈上待遇〉〈新〉〈中年層以上〉〈極稀〉〈かしてまり〉〈上品〉

2. その家の主人（新婦の父親）は、仲人に応えて、どのようなあいさつをしますか。

○ 「ホ」ンジツワ 「アリガト」ー 「ゴザイマス。「ユイノー」 タクサ「ン」ニ イロ」イロ イタダキマシ」テ 「アリガタ」ク 「イ」ク「ヒサシュー」ー 「オサメサセテ イタダキマス。「ホ」ンジツワ 「ド」ーモ 「アリガト」ー 「ゴザイマシ」タ。

本日はありがとうございます。結納、沢山、いろいろ戴きまして、ありがたく、幾久しく納めさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。（老男→老男、試演）〈上待遇〉〈新〉〈中年層以上〉〈極稀〉〈かしてまり〉〈上品〉

#### 【説明】

結納授受の際のあいさつでは、極度の緊張を伴うということもあって、間違ったことを言えないという心理からか、近頃では仲人の大役をつとめる場合には、予め冠婚葬祭辞典などを参考にして、当日述べるべき文言を用意しておくことが多いようである。当地の教示者は、ごく最近、仲人を経験しており、授受のあいさつをまずどう切り出すか、四苦八苦したということであった。ここでの試演は、そのときの再現してもらったものである。尚、新婦はこの場面で、あいさつをすることは無いという。

## II. 嫁をもらう家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁をもらうことが決まった家の人に道で出会って、近所の人たちはどのようなお祝いのあいさつをしますか。

- アッ コ「ン」ニチ「ワ。「アンタ トコノ ムスコサン」モ ナ「  
ン」カ オヨメサンガ 「キ」マッタソーデ 「ホントニ ヨ」カッ  
タ 「ナ」。「ヨメサン」 ドッカラ 「モライナ」サンノヤ 「ナ。  
あっ今日は。あんたとこの息子さんもねえ、何かお嫁さんが決まったそ  
うで、本当に良かったねえ。どこから嫁さんもらわれるのよ。

(老男→老男、試演) <中待遇> <新> <中年層以上> <盛> <親しみ>

2. 嫁をもらう家の人へは、そのあいさつに答えて、どのようなあいさつを  
しますか。

- アー 「オ」ーキン 「ナ。オカゲサン」デ」 サ「ナ」ー 「ムス」  
コモ 「ヨメサン キ」マッタ ワー。ンー ヨ「カ」ッ」タ ワ。

ああ、ありがとう。おかげさんでねえ、息子も嫁さん決まったよ。良か  
ったよ。(老男→老男、試演) <下待遇> <新> <全年層> <盛> <親し  
み>

### 【説明】

日頃から付き合いのある親しい男性同士の会話である。間投助詞のサ「ナ」  
ーや、「オ」ーキン 「ナ。に、松阪市方言の特色をみることができる。

また、女性同士のあいさつでは、

- オタクサン「ノ ムスコサン」 エー ゴエ」ンニ ナリナ」シタンヤ  
テ 「ナ」ー。

お宅さんの息子さん、良い御縁となられたのですってね。(老女→老女  
、試演) <中待遇> <古> <中年層以上> <盛> <ややかしこまり> <上  
品>

- エー。「アリガ」ト 「ゴザイマス。エー 「ト」コカラ 「キメテ  
イタダキマシ」テ 「ナ」ー。エー 「ツゴ」ーニ シテ イタダキマシ」  
タ 「ホントニ。

ええ。ありがとうございます。良いところから決めていただきましてね  
え。良い都合にさせていただきました。(老女→老女、試演) <中待遇> <  
古> <中年層以上> <盛> <ややかしこまり> <上品>

### 【説明】

エー ゴエ」ンニ ナリナ」シタ、エー 「ツゴ」ーニ シテ イタダキマ  
シ」タといった婉曲的なやりとりに上品さが窺える。

### Ⅲ. 嫁に出すことが決まった家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁に出すことが決まった家の人に、近所の人たちはどのようなあいさつをしますか。

- コ「ン」ニチワ。「アンタ ト」コモ エー ト」コエ 「キマツ」  
ー オクレナシ」テ 「ヨロシ」アシタ ナ」ー。ド「コ」イ 「イカン  
ス」 「ン。「ト」イ ト」コエ 「イカンス」ンヤテ ナ」ー。

今日は あんたとともに良い所へ決まっていたいただいて良かったですねえ。  
(娘さんは)どこへ行かれるの。遠い所へいらっしゃるんですってねえ。  
(老女→老女、試演)〈中待遇〉〈古〉〈中年層以上〉〈盛〉〈ややかしこまり〉〈やや上品〉

2. 嫁に出す家の方は、そのあいさつに答えて、どのようなあいさつをしますか。

- ンー。「ト」イ ト」コヤ モ」ンデ 「ナ」ー。「チ」バノ ホー」  
エ サ「ナ」ー 「イカ」ナ 「アカン モ」ンデ。「シンバイ」ナンヤ  
ケ」ドモ マー 「レンアイヤ」デ シカタ」ナイ ワ「ナ」ー。イツマ  
デ「デ」モ 「ムス」メワ 「オイトケ」ヘン」シ 「ナ」ー。

うん。遠い所だものでねえ。千葉の方へねえ、行かなければ駄目なもので。心配なんだけども、まあ、恋愛だから仕方ないわねえ。いつまででも娘を置いとけないからねえ。(老男→老女、試演)〈下待遇〉〈新〉〈全年層〉〈盛〉〈親しみ〉

#### 【説明】

嫁に出すことが決まった家の人へのあいさつでは、オ～ナス、～ンス、～アスなどの尊敬表現、丁寧表現が用いられている。これらは、比較的親しい間柄にあっても、当地では、女性(中年層以上)に盛んに用いられる、敬語表現法である。

### Ⅳ. 結婚式当日のあいさつ

結婚式当日、結婚式に出席した人たちは(親戚以外)、どのようなあいさつをしますか。

以下では、出席した人として、男性、女性それぞれの場合を取り上げる。

#### －男性の場合－

1. 新郎の父親にどのようなあいさつをしますか。

- アッ コ「ン」ニチ「ワ。エー 「ホ」ンジツワ 「ムスコサン」ノ  
ゴケッコン」シキ 「ホントーニ」 オメデト」ー。「エンリョナ」ク 「  
シュッセキ サセテ モライマシ」タ。

あっ、今日は。ええ、本日は息子さんのご結婚式、本当におめでとう。  
遠慮なく出席させてもらいました。(老男→老男、試演)〈下待遇〉〈新  
〉〈全年層〉〈盛〉〈親しみ〉

1-2. 父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○ 「ドーモ 「オーキン 「ナ。マー ナン「ニモ ナイケドモ  
マー アノー 「ユックリ ヤッテン 「カ。

どうもありがとうね。まあ、何にもないけど、まあ、あのう、ゆっくり  
やってよ。(老男→老男、試演)〈下待遇〉〈新〉〈全年層〉〈盛〉〈親  
しみ〉

### 【説明】

日頃から非常に親しくしている者同士のやりとりとした。また、現代風の  
式場ではなく、昔風に新郎の家でとり行われる結婚式に出席した場面を設定  
した。あらたまり場面であるとはいえ、「新郎の家」という場が関与してい  
るせいか、打ち解けたやりとりとなっている。

#### -女性の場合-

1. 新郎の父親にどのようなあいさつをしますか。

○ キョ「ーワ オヒガラモ ヨテ 「ケッコナ コトデ。オメデ  
「トー 「ゴザイマス。「ワタシ トコマデ 「エライ モー ア  
ノー 「ゴチソーニ ナリマシテ モー 「エンリョナシニ アノー  
「ヨバレテ キマシタ 「ワ。

今日はお日柄も良くて、結構なことで。おめでとうございます。私の所  
まで大変、もう、あのう、御馳走になりまして、もう遠慮なしに、あのう  
よばれて(招待されて)きましたわ。(老女→老男、試演)〈上待遇〉〈  
古〉〈老年層〉〈稀〉〈かしこまり〉

1-2. 父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○ 「アリガト 「ゴザイマス。オイソガ「シイノニ ヨー 「キト  
クレナシテ。

ありがとうございます。お忙しいのに、よく来て下さって。(老女→老  
女、試演)〈下待遇〉〈古〉〈老年層〉〈盛〉〈ややかしこまり〉

### 【説明】

場面は男性の場合と同じである。父親のあいさつは、女性が試演したとい  
う点に注意。「ヨバレテ キマシタ 「ワ。にみられる、文末詞「ワ」が  
直前の話部に高接する(直前が高の時は、同じ高さで続くものも含む)場合  
は、低接する場合と比べて待遇価が高まるのが、当地を含め、広く伊勢方言

の特色である。

2. 新婦の父親にどのようなあいさつをしますか。

- コ「ン」ニチ「ワ。オタクサン「ノ」 オ「ジョ」ーサンモ 「ナ」ー  
エー 「ト」コエ エンガ 「キマリマシ」テ 「ヨ」カッタ「デス  
「ナ」ー。

今日は。お宅のお嬢さんもねえ、良い所へ縁が決まりまして、よかったですねえ。(老男→老男、試演)〈中待遇〉〈新〉〈中年層以上〉〈盛〉〈ややかしこまり〉

2-2. 父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

- 「オ」ーキン 「ナ。「ウ」マイ コ「ト エンガ アッテ ナ」ー。  
「ウ」チノ 「ムスメ」モ 「モロテ モラウ ヨ」ーニ ナッ「タ」  
ワ。「オ」ーキン ホントニ。イ「ロ」イロ 「シンバイ」 カケ「テ  
「ナ」ー。

ありがとうね。旨い事、縁があってねえ。うちの娘ももらってもらうようになったよ。ありがとう本当に。いろいろ心配かけてねえ。(老男→老男、試演)〈下待遇〉〈新〉〈中年層以上〉〈盛〉〈ややかしこまり〉

#### 【説明】

同じ村の中の、気どころの知れた同士のやりとりである。場面は、1. と同じ。

V. 結婚式後、姑が新婦を連れて近所へあいさつに回る時のあいさつ

1. 結婚式後、姑が新婦を連れて、近所の家にあいさつをして回る時、姑はどのようなあいさつをしますか。

- オハ「ヨ」ー 「ゴザイマス。コンド アノ」ー 「ウ」チー キマ「シ  
タ 「ムスコノ ヨメデス」ンヤ 「ワ。「ド」ーゾ ヨロシュ」ー オ  
ネガイ 「シマス。「タノンマス ワ「ナ。「コレ チョッ」ト 「シル  
シデス」ンヤ 「ワ。

お早うございます。今度、あのう、うちへ来ました息子の嫁ですよ。どうぞよろしく願います。頼みますわね。これ、ちょっと、印ですよ。(老女→老女、試演)〈中待遇〉〈古〉〈中年層以上〉〈稀〉〈ややかしこまり〉

2. そのあいさつに答えて、近所の人にはどのようなあいさつをしますか。

- 「アリガ」ト 「ゴザイマス。「アンタ ト」コモ エー 「ツゴ」ー  
ニナットー クレナシ「テ。オメデ「ト」ー 「ゴザイマス。「コレカラ  
「モ ヨロシュ」ー 「タノンマス。

ありがとうございます。あなたのところも 良い都合になられまして、おめでとうございます。これからもよろしく頼みます。（老女→老女、試演）〈上待遇〉〈古〉〈老年層〉〈稀〉〈かしこまり〉

【説明】

新婦を連れて近所へあいさつ回りをするのは、午前中のことが多いようである。姑のあいさつには、先に触れた、ワの高接が待遇度を高めている。この文末のイントネーションは、主として、女性（中年層以上）に多く認められる。複合型のワ「ナも同じ。

Ⅵ. 嫁を迎えた家の人へのお祝いのあいさつ

1. 10日ほど前に、長男（29歳）に嫁をもらった60歳台の父親へ、結婚式に招かれた50歳台の女性が、昼下りの路上で、どのようなお祝いのあいさつをしますか。

○ コ「ン」ニチ「ワ。「コナイダ」ワ エ「ライ 「ゴツォニ」 ナリ「マ」シテ スイマ「セ」ンダ。モー 「シンコンリョ」コー モー カイトイタ カ「ナ」ー。ホイデ イッショ「ニ」 スマンス「ン」。

今日は、この間は、大変御馳走になりまして、すみませんでした。もう新婚旅行、帰っていらっしたのかなあ。それで、一緒に住まれるの。

（老女→老男、試演）〈中待遇〉〈古〉〈老年層〉〈稀〉〈親しみ〉

2. 父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○ 「コナ」イダワ ド「ー」モ スマ「ン」ダ 「ナ」ー。「ムスコ」ラ フ「ー」フモ オーシュー「リョ」コウモ 「ブジニ カイツテ キマシタワ。「ワシ」ラモ マダ 「ワ」カイシ 「コドモガ デ」キルマデ 「ベツニ」 スムヨ「ニ」 ナッタ「ン」ヤ ワナ。オタガイニ 「キラ」クヤデ。

この間はどうも済まなかったねえ。息子等夫婦も、欧州旅行も無事に帰ってきましたよ。わしらもまだ若いし、子供ができるまで、べつべつに住むようになっただよ。お互いに気楽だから。（老男→老女、試演）〈下待遇〉〈全〉〈老年層〉〈多〉〈親しみ〉

【説明】

既に結婚式の際、お祝いのあいさつをしているので、ここでは招待を受けた礼を述べることが多いという。ごく親しい者同士のやりとりである。

Ⅶ. 結婚式後の仲人へのあいさつ

1. 結婚式後、仲人の所へ新郎新婦（あるいは両親）がお礼に行った時、どのようなあいさつをしますか。

○ 「コナイ」ダ イロ」イロト オ「セ」ワニ ナリマ」シテ 「アリガ  
ト」ー 「ゴザイマシ」タ。マ」ー コンゴトモ モー ナン「ニ」モ  
サ「ナ」ー モー ミジュ「ク」ナ モ」ンデスデ サ「ナ」ー マー  
「ヒト」ツ ヨロシ」ク オネガイ 「シマス。

この間は、いろいろとお世話になりまして、ありがとうございました。  
まあ、今後とも、何にもねえ、もう未熟な者ですからねえ、まあ、一つよ  
ろしくお願いします。(老男→老男、試演)〈上待遇〉〈古〉〈中年層以  
上〉〈多〉〈かしてまり〉

2. 仲人は、それに応じて、どのようなあいさつをしますか。

男性

○ アー 「ヨ」ー 「キテ ク」レタ 「ナ」ー。ナカ「ヨ」ー 「ヤッ  
ト」ル 「カ。マー 「ハ」ヤイ コ」ト 「コドモー ツ」クッテ ナ  
」ー オ「ト」ツァンヤ オカ」ヤン 「ヨロコバシタッテ ク」レ  
ヤ。

ああ、よく来てくれたねえ。仲良くやってるか。まあ、早く子供を作っ  
てねえ、お父さんやお母さん喜ばしてやってくれよ。(老男→老男、試演  
)〈下待遇〉〈古〉〈中年層以上〉〈多〉〈親しみ〉

女性

○ 「アンタ」ラモ マー ナカ「ヨ」ー シ」テ 「ホレカラ」 ハ「ヨ  
」ー 「マ」ゴデモ ツ」クッテ オ「ジ」ーサンヤ オ「バ」ーサン  
オ「ト」ーサンヤ オカ」ーサン 「ヨロコバシタンナ」イ。

あなた達も、まあ、仲良くして、それから早く孫でも作って、おじいさ  
んやおばあさん、お父さんやお母さん喜ばしてやりなさいよ。(老女→老  
男、試演)〈下待遇〉〈古〉〈中年層以上〉〈多〉〈親しみ〉

【説明】

新郎が仲人にお礼のあいさつをするという場面である。これに対し、仲人  
夫婦が順にあいさつするという設定とした。仲人夫婦は、ほぼ同じ内容のあ  
いさつになるよう、お願いした。

Ⅷ. 嫁のはじめての里滞りのあいさつ

1. 嫁がはじめて里滞りする時、嫁ぎ先の親に、どのようなあいさつをし  
ますか。

○ 「チョ」ト 「ザイショ」エ ア」イサツニ 「ヤッテモライマスデ。

ちょっと在所へ挨拶にやってもらいますから。(老女→老女、試演)〈  
中待遇〉〈古〉〈全年層〉〈多〉〈親しみ〉



2. 両親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○ 「キー」 ツケ」テ 「イッテ キテ」ー 「ナ。「ムコーノ」 オト  
」ーサンヤ オ「カ」ーサンニ 「ヨロシュ」ー 「ユートイテ」ー 「  
ナ。「コレ ホイデ チョ」ト 「テミ」ヤゲ「ニ」 「コレ」 モッテ  
テン 「カ。

気を付けて行って来てね。向こうのお父さんやお母さんによろしく言っ  
ておいてね。これ、それで、ちょっと手土産に、これ、持って行ってよ。

(老女→老女、試演)〈下待遇〉〈古〉〈全年層〉〈多〉〈親しみ〉

【説明】

式後、三日目には里帰りをする慣習があった。「フツカガ」エリとも「ミ  
ッカガ」エリともいう。式直後、新婚旅行に行くということが一般的になっ  
て次第に消滅してしまった。

当地では、結婚式後、しばらくしてから、新郎新婦が親戚から招待される  
という慣習がある。ハ「ツ」ヨビ(初呼び)と呼ばれており、これは今なお  
続いている。

○ ハ「ツ」ヨビ チュ」ンワ 「コ」イ シンセキガ」ヤ ナ」ー シン  
ロー「シ」ンブガ 「リョコーカラ カエッテ キ」テカラ テキト」ー  
ナ ヒ」ニ 「ヨブ」ンヤ。

初呼びというのは、濃い親戚がねえ、新郎新婦が旅行から帰ってきてか  
ら、適当な日に(新郎新婦を)呼ぶのよ。(中女→筆者)

また、結婚式の披露宴に呼ばなかった親戚を特別に招待して、宴席を持つ  
ことがある。「ニノゼン(二の膳)」と呼ばれている。

○ 「ウ」チラワ 「サ」ー 「ケッコン」シキデ サ」ー アノー 「ニ  
ノゼン」チューテ サ「ナ」ー 「チョ」ット ウ」スイ シンセキワ  
サ「ー アノ マー 「シキジョーヤ アンナ」ン イカ」ント 「ナ  
「ベツノ ト」コデ 「ナ」 コー 「ヨバレル」ンガ ア「ル」ンヤ  
ワ。

この辺はねえ、結婚式でねえ、あのう、二の膳といってねえ、ちょっと  
薄い親戚はねえ、あのまあ、式場とか、あんなの行かないでね、別の所で  
ね、こう、よばれる(招待される)のがあるんだよ。(中女→筆者)

(大阪市立西第二商業高等学校)